

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み（条件づくり）	校区社協としての取組
豊かな自然の中で、みんなの笑顔が絶えない川口町	「ご近所で助け合うまちづくり」	高齢者	移動手段の問題	<ul style="list-style-type: none"> 路線バス廃止（海路口線）により乗合タクシーが運用されているが利便性が悪い。バス停まで行くのが困難 送迎サービスが無いと買い物や病院受診が困難 高齢者の運転免許自主返納が進まない 高齢者ドライバーの運転が危険な場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業の配達サービスの情報提供やお買物サポート便利ブックの活用を進める 低料金かつ利用しやすい乗合タクシー等 乗り合いタクシーの実証実験（R4.10～12） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元企業の移動販売や配達サービス等の情報を集約し、住民に周知する
			高齢者の孤立、社会参加と健康維持	<ul style="list-style-type: none"> 独居高齢者や老夫婦が増加しており、地域から孤立しやすい状況 家族は離れた場所に住んでおり、緊急時に対応できない場合がある 日常生活で地域住民の協力が要（子どもたちの支援が受けられない為） コロナで地域での集まりやサロン活動が休止している状態 百歳体操など介護予防のための活動の場がない 地域活動の担い手が不足している 他者との交流の機会が減り、心身機能の低下が懸念される 高齢者の心身の変化に気づきにくい状況 グランドゴルフ参加者が減少している 話し相手だった同年代の友人が施設に入ったり亡くなったりして他者との交流の機会が減った高齢者が増えている 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの声掛けや地域の各種団体との連携して取り組む 十分な感染対策を行い、サロンや行事の再開を検討する 運動の啓発を図るとともに運動機会を設ける グランドゴルフへ参加しやすいよう初心者デーを設ける いきいきサロンへの参加を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ○通院や買い物等に低料金でかつ利用しやすい乗り合いタクシー等を行政に要望する
			8050問題	<ul style="list-style-type: none"> 家族（子ども）に収入（仕事）がなく、親の年金に頼って生活している家庭が見られるようになった 引きこもりの子どもから高齢の親への虐待が増加傾向にある 相談窓口（市町村・ささえりあ）の周知が不足している 引きこもりの子どもへの就労支援の周知が不足している 家族間の問題は本人たちが隠そうとすることもあるので外部に出にくく、介入が遅くなることもある 	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口の周知（市、ささえりあ、障がい者相談支援センター、生活自立支援センター等） 日頃の見守りや訪問等で早期に発見し、情報を共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ○「川口社協だより」で相談窓口を広報する
		障がいに対する理解	<ul style="list-style-type: none"> 障がいに対する知識が乏しくや対応がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ふれあう機会、知る機会を設ける（健康フェスタや体協の行事等で交流） 校区で通学可能な支援学校と小学校又は、地域との連携関係がどのようになっているのか（連携や交流の機会ができれば、より理解に繋がるか） 	<ul style="list-style-type: none"> ○授産施設などの訪問を行う 	
		障がい児・者の孤立防止と社会参加	<ul style="list-style-type: none"> 情報が少なく、交流もないため把握ができない 家族で抱え込んでいるため、課題が表面化しない 	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者相談支援センターとの連携・周知 地域で情報交換ができる活動やイベントの検討 安心して集える場所・交流の場づくり 		
	豊かな自然の中で安心して子育てできるまちづくり	子ども・子育て	子ども・子育て世帯と地域の交流	<ul style="list-style-type: none"> 年少人口が減少しており今後も減少が続くことが見込まれている 親子が気軽に集える場所が少ない スマホやタブレットなどが遊び道具になっている 子育て世帯と地域が関わる機会が少ない ここ20年間で中学校を含めた児童生徒数が約4割減少した 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園との関わり 学校や保育園等の活動を通しての保護者の親密なつながりづくり 子育て世帯と地域との関わりを増やす機会をつくる 子ども達と地域とのふれあいの場（いきいきサロンの交流、小学校イベント、天明地区市民のつどいなどのイベント、挨拶や声かけ） 子育て支援ネットワーク活動を通しての交流（映写会など） 	<ul style="list-style-type: none"> ○いきいきサロン等で保育園児と交流を図る
			子ども・子育て世帯の見守りと支援	<ul style="list-style-type: none"> 子ども、子育て世帯の実態把握が難しい 通学路でスピードを出す車輛を頻繁に見かける 共働き家庭やひとり親家庭が増え、子どもたちの放課後の居場所がない 虐待、引きこもり、いじめ、不登校など外部から見つけることは困難 コロナ禍で子どもたちが安全に遊べる交流の場や保護者の相談の場が減少している コロナ禍で登園自粛期間のストレスや負担感を抱える親子がいる 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃からの声掛けや見守りの実施（顔の見える関係づくり） こんにちは赤ちゃん事業を再開する 安心、安全な子育てや子どもの成長を地域全体で支えていくことが必要 通学路の安全点検や危険個所の確認 学校やPTA、その他地域団体と連携した行事の開催 育児不安等の心配事を抱える家庭があれば区役所へ繋ぐ 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校のあいさつ運動を推進する（PTA・民生委員等） ○こんにちは赤ちゃん事業を再開する
	共逃さな大切にしつくり人も見	災害・防災	災害時における避難支援	<ul style="list-style-type: none"> 独居や老老世帯の高齢者は避難所までの移動手段がない 大きな水害が発生した時に安全な避難所が地域にない 災害時要援護者への対応について、関係機関での情報共有ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> 要援護者の実態把握と支援体制の構築 自主防災のライングループをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○共助の絆づくり
			平常時の備え	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路における危険個所の把握ができていない 避難訓練ができていないので、実際に災害が起きた時に不安がある 家庭内での備蓄食料の確保不足 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の種類、規模に応じた避難場所の周知 日常から意識向上啓発や活動や災害への備え（家庭内での食料備蓄）を促す 校区全体での避難・防災訓練の実施（備蓄食料の活用） 避難所のサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難訓練の協力
	絆を近所付き合い合いを大切に助け合いの	暮らし全般	地域役員の担い手不足	<ul style="list-style-type: none"> 地域役員について仕組み等を知らない住民が多い 地域役員の高齢化や後任を探すのに苦労している 共働き世帯が増え、地域活動への参加が少ないため関わろうとする意識が育たない 	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体の活動を周知し、住民の理解を高める 全世代が気軽に参加できるイベントの中で交流を深める 	
環境と治安（ゴミステーションや騒音トラブル）			<ul style="list-style-type: none"> ゴミ出しのルールが守られていない ごみのポイ捨てをよく見かけられるようになった ペットの糞尿の放置 暴走する車があり危険に感じている 騒音トラブルに悩んでいる（近隣の工場等） 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミ出しカレンダーの配布及びルールの啓発 ペットの飼育マナーの正確な情報の周知 騒音に係る防止策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○役員の活動内容を見直す 	
空き家・空地・ごみ屋敷			<ul style="list-style-type: none"> 空き家、空き地が増え、防犯上危険と感じる 地域にごみ屋敷があり、不衛生である これらの問題をどこに相談していいかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家、空き地、ごみ屋敷の実態把握 相談窓口の周知 		